

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

事業所名：グループホームふるさと竜王

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の皆様に安心して生活して頂けるよう事業所独自の理念を掲げているが、地域密着型サービスとしての理念が掲げられていない。	○	これまでの理念もふまえた上で地域とのつながりも含めた理念を掲げていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を理解し、日々利用者とのかかわりの中で常に心がけている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の行事、ご家族の面会の際には折りにふれ話をしている。	○	地域とのつながりを含めた理念を今後、家族や地域の方々に伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	犬を飼っているので近所の子供たちが遊びに来たり、パンのみみをあげてくださいと近所の方が持ってきてくださいます。隣の工場の作業員の方も散歩などで外出した際には気軽に声をかけてくださいます。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っている。地域行事やお祭り等に参加している。お祭りの時には引換券などを頂き参加しやすいように配慮してくださっている。		

事業所名：グループホームふるさと竜王

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的な取り組みは今までにない	○	今後、職員の実践を生かして地域の方々にも役立つ認知症の理解や情報を提供できる機会を作っていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義を全職員が理解できるよう職員会議等で話をしている。外部評価の結果をミーティングで取り上げ改善に向けての案を出している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者やご家族には意見をたくさん頂いている。他の立場から見た具体的な意見が多く、職員会議で話し合いを行い必要な点は改善に向けて取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉課長に運営推進会議に参加していただいている以外にも、事業所の現場の実情等を伝え、都度アドバイスをもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要性のあるケースは今までにない。	○	今後あり得ることに備え、学ぶ機会を作り取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「リスクマネジメント」の研修を受講し虐待への理解、徹底防止に努めている。全職員が理解し実施している。	○	高齢者虐待防止関連法についても今後学ぶ機会を持ち取り組んでいく。

事業所名: グループホームふるさと竜王

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に書面で家族に説明し納得した上で押印していただいている。疑問点などが生じた場合はその都度対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で利用者の不満や不満や思い要望を聞くことができるよう、ゆったりと過ごすよう心がけている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調の変化、日常生活の様子など都度家族に報告している	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内で苦情の窓口を設置している。又公的な相談窓口の連絡先を契約時に口頭で説明している。書面を掲示している。	○	家族が意見や不満を話しやすいように今後家族同士で意見をだして代表者等から伝えてもらえるようにする。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員出席のもと職員会議を毎月行いいろいろな発想で意見を出し合っている。職員間でよく検討し、都度対応している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	食事専門の職員がいる。また月～金にケアマネが常時いるので家族の要望による病院受診時の付き添いや個人的な外出にも勤務の調整がしやすくなっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は行わず顔なじみの職員による体制が継続できている。体調不良による離職があるが利用者、家族への影響がないよう、ゆとりある人員確保している。		

事業所名：グループホームふるさと竜王

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には積極的に参加しその後は必ずミーティングを職員間で行い、情報や研修内容の共有ができるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研GH協会の研修への参加や市内のGH職員が集まる担当者会議に参加し意見交換して、他のGHの良い点等を取り入れたり業務等の悩みなどの問題解決方法を交互にだしてサービスの質の向上につなげている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士の食事会等を行っている。ストレスが少しでも解決できる機会を設けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修の参加は勤務時間内扱いにしている。資格取得へのサポートとして講座費用を出している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前にご本人と直接会い、話を聴いている。入所してしばらくはご本人が不安であると思うので時間をかけて聞き出し、新しい環境への不安を少しでも取り除けるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人の状況やご家族の思い要望を聞き、少しでも思いに添えるよう努力している。入所当初は特に日々の様子を家族に伝えている。	

事業所名: グループホームふるさと竜王

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望の話を受付けてから家族、職員、ケアマネなどとよく話しをした上で対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状況を一番に考え家族と話し合いながら対応している。入所時には一日も早く安心して過ごしていただけるよう職員が常に心配りをしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者が何に喜びや不安を感じているのかを察して共にその気持ちを分かり合えるよう配慮している。また利用者に教わったときには感謝の言葉を伝え共に和やかに生活できるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が同じ気持ちで利用者を支えられるよう情報を交換している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人から出た思いを職員だけが把握せず、家族にも伝え本人と関わってもらえるよう本人の日頃の状態を報告している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	働いていた頃の同僚が面会に来られていたのでその方にも連絡をとり訪問していただいている。新聞のお悔やみ欄を毎日確認し知人が亡くなられたときには香典を頼まれる利用者がいて支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活のかかわりの中で利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな利用者には職員が寄り添い支援している。利用者同士で助け合う場合もよくある。(食事の配膳や着替え、帰宅願望のある方を「ここにいたほうがたのしいよ」等、声をかけてくれる)		

事業所名：グループホームふるさと竜王

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された利用者、家族の方と連絡をとり行事に誘ったり、ご本人に会いに行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いをゆったりした時間を作り把握に努めている。困難な方に対しては、職員が一方的に思いを決め付けることなく家族からの情報を得ている	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族から得られる情報を聞いている。入所後も本人家族から話を聞いている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態等、個別記録に時間をおって記録し生活リズムを把握している。本人が今行っていないことでも、できることを本人の生活を見て把握に努めている	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から思いや意見をよく聞き、その内容をもとにケアカンファレンスを毎月行い、一人ひとりの気持ちを重視し介護計画を作成している。	○ センター方式を取り入れている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化があった場合は期間終了前にも見直しを行っている。その際にも本人、家族からの思いや意見を聞いている。	

事業所名: グループホームふるさと竜王

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○	今後必要性があるケースが生じた場合は地域包括支援センターに相談しながら進めていきたいと考えている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		

事業所名: グループホームふるさと竜王

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理事長の義弟が精神科医でボランティアで来所している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師がおり、利用者の健康管理・状態変化に応じた支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は付き添い本人に対しての情報提供をし、早期退院ができるよう病院、家族と話をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日々の健康管理には気を配りバイタルチェックを毎日行っている。緊急時のマニュアルがあり、職員間で徹底している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化に備えて家族と話をしている。職員の終末期に対する不安や技術の向上について話し合っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の日常生活の様子を何度か見ていただき習慣や状態を日誌等から細かに話をしている。その後も面会に行き住み替え先との情報交換をしている。		

事業所名: グループホームふるさと竜王

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導など介護を必要とする利用者の方がいるので、他の利用者にわからないように自室へ誘うフリをして、トイレ誘導するなど言葉かけや対応に全職員が日頃から注意を払っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	メニューや普段着等、本人が何を食べたいか、何を着たいかということを決めてもらっている。意思表示が困難な方では普段の食事で何が一番先に手を出すかや残すかを見て食事の好みの把握をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物などなるべく本人がこうしたいと言ったそのときに対応するよう努力している。	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	気候に合わせた服を何枚か用意して自分で着たい服を選んでもらっている。外出や行事等るとき化粧をするなど希望に応じている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを一緒に考えている。調理や片付けを利用者の個々の力に応じて参加していただいている。職員も一緒に同じメニューを食べている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	3時のお茶の時間に自販機でジュースを買うときには100円を渡し、自分で飲みたいものを買ってもらいまた、おやつも数種類机の上に出し好きなものを選んでもらっている。	

事業所名：グループホームふるさと竜王

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックしている。おむつを使用していた利用者の方にもオムツを外してトイレ誘導を行っている。ホーム内では尿とりパッド等、着用せず行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自由に入浴できる時間を決められ長さもバイタルに問題なければ特に制限はしていない。同性職員対応をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の状態に合わせて昼寝をしたり、ホーム内の数箇所ソファが置いてあり、くつろぐことができる。夜、眠れない方に対しては日中の活動でリズムを作れるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや裁縫など利用者の経験を活かしてもらっている。職員の満足感や強制にならないよう注意している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には財布をもってもらっている。自販機でジュース購入や買い物に行ったときには自分で払ってもらうようお金を渡している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など個々のペースや希望にあわせて外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎日お悔やみ欄を見て、知人が亡くなられたのを知り、香典を持っていく等個々に応じて支援している。		

事業所名: グループホームふるさと竜王

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自室に子機を持っていき使用している。玄関先には入居者一人ひとりの名前が入った郵便受けがある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会に来られるよう時間は自由としている。訪問者が面会しやすいようホールや自室などを案内している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという信念を全職員が理解し実施している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵はかけないを徹底している。利用者の様子を見守り、理解し、家に帰りたいというときは一緒についていくなどしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、二階の居室で過ごす方もいるので時間をみながら言葉をかけたり、入室時には必ずノックをして同意を得ている。ホールに必ず職員がいて離れるときには声をかけている。夜間は定時に巡視を実施している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常生活で必要な歯磨き粉や洗剤などはおいてあるが、常に利用者の状態を把握し危険がないか職員が確認している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「はやりはっと」を記録し職員会議で話し合い、再発防止に向けた検討を行っている。		

事業所名：グループホームふるさと竜王

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や吸引機での吸引など訓練している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を使い避難訓練を実施している。災害に備えて非常持ち出し袋や防災頭巾を準備している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時には本人の日々の様子を伝え、リスクについても話をしている。抑制するのではなくどうやってそのリスクを減らすかの対策を家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の普段の体調を職員が把握していて普段と何か違うと思ったらバイタルチェックを行い記録し状態により受診につなげている。申し送り時には必ず詳しい様子を伝えている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬の内容がわかるようファイルし薬の目的等、把握できるようにしてある。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつにバナナやヨーグルトを食べてもらったり朝起きてすぐにコップ一杯の水を飲むよう促したり身体を動かすため毎日10時にラジオ体操を取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きを言葉かけで対応している。義歯の洗浄、管理をしている。		

事業所名：グループホームふるさと竜王

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックをしている。水分摂取は朝昼夕食時、10時、15時のお茶、入浴後等こまめに飲用している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事、お茶の前には手洗い、手に消毒の実施。インフルエンザの予防接種は全員受けている。また、玄関先に感染症に対しての資料を貼り、面会者等にも消毒等促している。感染症予防対策のマニュアルがあり勉強会を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルをもとに調理用具やふきん等の漂白を毎晩、全職員が実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にイスとテーブルがありいつでもくつろぐことができる。また自販機があり近所の方が来やすいようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールと台所が近いので食事のにおいが広がり刺激になっている。夜、自室入口からの電気の明かりが気になる方には、入口から明かりをさえぎるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや二階のホールにソファーや小さなテーブルがあり自由に過ごせる空間がある。		

事業所名：グループホームふるさと竜王

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の意向や本人の好みにより異なるが、家で使用していた布団や家具等、使いなれたものを持ってきていただいている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	それぞれの居室、廊下、ホール、お風呂場等に温度計があり温度調節をこまめに行っている。本人の希望もふまえてこまめに換気を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関での靴を履き替えやすいようてすりを付け足したり、利用者さんと過ごす中で気づいたことを取り入れている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各自の居室の入口に本人の顔写真をはったり、トイレやお風呂がわかるようプレートをつけて混乱せず日常生活が送れるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前にイスとテーブルを置いて日光浴を楽しめるようにしている。夏にはちょっとした野菜を狭い空間ながら作った		

事業所名：グループホームふるさと竜王

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

犬を飼っているので近所の子供たちが遊びに来たり、利用者さんと一緒に朝のゴミ捨てや散歩に行った時、となりの工場の方や近所の方と交流する機会が多くあり、利用者さんの日々の生活の刺激となっています。ホーム内では他の利用者さんの面倒を見てくれる利用者さんがいてその中で利用者さん同士でも刺激となり、皆で力を合わせて本当の自分の家のような穏やかな生活を送れています。また、ご家族の協力も多くあり、利用者さんと家族、職員との思いがまとまっています。